
廻和ペットショップ店

黄泉ジュノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嵐和ペットショッピング店

【Zコード】

Z6395Z

【作者名】

黄泉ジユノ

【あらすじ】

嵐和ペットショップを開店予定、現在、俺唯一は早くも躊躇しております。

こんな事では繁盛所か開店すら出来ないぞつー？

大金をつぎ込んで計画した嵐和ペットショップを無事開店できるのかー！

待ー！

未来の俺に期

一、始めは精密に計画を

凪和ペツトショツプ開店！－！

そんなチラシ眺める。

俺はペツトショツプを開店するつもりだ。名前は考えるのが面倒だつたので凪和唯一なみわかいつこという名前から名字を取つた。店はもう出来上がつてゐる。これからする事は、一、動物を集め二、餌やおもちゃなどの日用品をそろえる 三、店員を集めるちなみに、今持つてゐるチラシは開店した時に出すための試作品だ。

現在年齢一八歳、通常皆は大学行くなり就職するなりするのに対し、俺は店を開く。きっと全世界で俺だけだろつ。別に俺は動物に好かれやすいしまあ好きだ、というだけで溺愛しているというわけじゃない。

俺が何故大学にも行かずペツトショツプを建てたのか、これは一いづれ、俺の兄の計らいによるものだ。

兄は一言で言うと上出来。名前の通り一際冴えておりイケメンだ。兄は俺が中一の時に「高校卒業したら店を開かないか?」とニッコリ笑いながら訪ねてきた。

兄は雑誌の中級モデルをしていて金は十分あり、開業金は俺が出してやると言われた事もあり頷いてしまつた。

まあそんな事を高二で思い出し、「この辺りにペツトショツプ無

かつたよな?」という事で、めでたさは特になく、小さなペツトシヨップが建てられた。

「すいません！」

そこで思考が一瞬停止し誰かが来たという事を理解した。

（まだ開店していないんだけどなあ……）

内心で呑氣な事を呟き、また動かなしで動トアヘ向かう。

自動ドア越しではバー上にワイヤシャツ、下はジーパンというカフ
な格好の女の子が長い黒髪を揺らしていた。

「あつ、すいませんっ！ちよつといい？じやなくていいですか？」

どうせから敬語には慣れていないらしい。見た感じ俺と同年代だ。

「あええと
とにかく裏口は行こで」
「はいっ！」

俺は言つと女の子はそのまま走つていぐ。さて、俺も裏口に行くか。

ガチヤツ

「入っていいよ」「はいっありがとう」「やあこますーー。」

女の子が店に入り控室にある椅子に座る。

「それで、どういったご用件で？」

はい、実はですね、ここで働きたいんですっ！！」

就職希望者ね、はいはいOK

面接つべどひせひんだつけ?

店員募集はすると決めていたけどまだ全然準備出来てないんだよ、あれか？高校受験の時みたいにやればいいのか？ そうなのか？ 俺は汗をたらたらと流す。女の子は満面の笑みを浮かべ楽しげだ。

「あ、あ～、えっと、な、名前は？」
「結弥幸喜と言こます」

結弥幸喜、男っぽい名前だなあじゃなくて、次はどうすればいいんだ！？

「もんじゅの事・お断りします」とか・また今度来てください」とか言いたいんだけど

11

すつゞい笑顔だよこの子！言えないよ！切り出せないよ！

俺が内心で悶えているのを結弥さんが不思議そうに眺めてるよー！もうどうすればいいのーー？

「あの～、大丈夫ですか……？」

「なつ何がつづつ！？？」

……いきなり声をかけられたため変な声を出してしまった。
落ち着け～俺、COO～だ、COO～、イッシア クール

「ああ、大丈夫だよ、それより動機を教えてくれるかな」

「動機ですか？」

「うん、動機、なんでこここの店員になりたいの？」

「うん、大切だよね、動機、何で忘れてたんだる。で、相手はどう
来るか……」

「なんでってそれは……動物が好きだからに決まってますよつ
つ……！」

「い、つー？」

結弥さんが目をキラッキラさせながら身を乗り出す。

「動物つて可愛いですねっ！私は特にハムスターのジャンガリ
アンが好きでもう私ハムスター用の遊具を自分で作つて遊ばせた位
でつつ……」

「そつそつなんですか……」

愛犬家ならぬ愛ハムスター家？溺愛しているのは間違いないよう
だ……。

それでこの子どうしよう、なんかここまで力説した後で不採用つ
てのは可哀想だな……。

……現在店員の店について困る事はないだろうコンチクショ

— ! ! !

「採用決定つつつ！－！」

「えつ！？ 本当ですか！？ ありがとうございます！」

彼女は俺に頭を下げる。それを見ながら真っ白な灰になつた俺は思つ。

すぐにこの店潰れるな……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6395z/>

凪和ペットショップ店

2011年12月21日15時47分発行